



# シリーズ 人・ひと



反差別・人権研究所みえ  
事務局長 松村元樹さん

今回は、あらゆる人権問題の解決に向けた取り組みを行う反差別・人権研究所みえ「ヒューリアみえ」事務局長の松村元樹さんに、近年増えているインターネット上での人権侵害、SNSから差別が拡散している現状などについてお話を伺いました。

## Q1 インターネットの中では、今、どんなことが起きているの？

**A** 2016年4月に発生した熊本地震直後、インターネット上で被災者を混乱させたり、関係する人々を深く傷つけたりする投稿がありました。

このことは、ほんの一例で、デマ(いいかげんな噂話や流言)やフェイクニュース(事実ではない、虚偽・デタラメな情報)がSNS※を通じて広く拡散され、時には世論を動かしたり社会的な混乱を招いたりする社会問題となっています。

こうしたデマやフェイクニュースは人々を混乱させるだけでなく、そこに偏見や差別意識が付け加えられて、人権侵害につながるケースもあります。

※ソーシャルネットワーキングサービスの略で、携帯電話やスマートフォン、パソコンを使って、多くの人と交流できるサイト



## Q2 デマやフェイクニュースに惑わされないためには？

**A** 「情報をうのみにしないこと」と「情報の発信元を確かめること」がまず大事です。そして、情報を使いこなす基礎的な能力(事実かどうか確かめることができる力、投稿することがよいか考え判断する力など)を身に付けることが必要なのではないでしょうか。

## Q3 インターネット上での人権侵害って、多いの？

**A** 法務省の発表によると、全国の法務局が被害者の申請を受理したインターネット上の記述や画像掲載などによる「人権侵犯事件」は、一昨年、2,217件で過去最高となりました。

これまで5年連続で過去最多を更新しており、特に昨年は、SNSによる人権侵害が目立ちました。

